

今年もJF全漁連主催で「貝殻利用と豊かな海づくり研修会」を開催しました。

3名の講師による貝殻利用に関する講演が行われました。講演後は参加者との活発な意見交換も行われ、盛況な研修会となりました。

## ①「魚礁の増殖機能と核藻場としての利用可能性」

独立行政法人 水産大学校 生物生産学科 教授 野田 幹雄氏

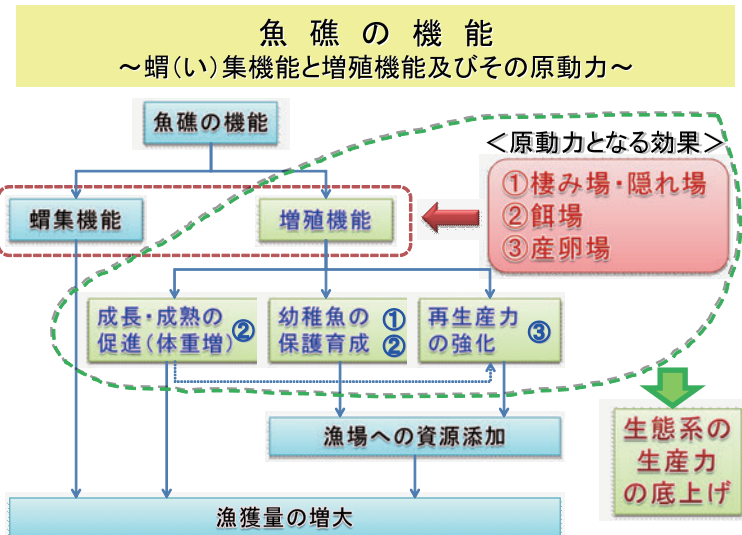
○故 柿元皓博士の研究内容をもとに演者がアレンジを加えて、魚礁の機能（蛸集機能、増殖機能）を説明されました。

その他・・・

◎様々な海藻（魚類が好む海藻やそうでない海藻）が混ざって生えることで、魚類による食害が吸収（減少）されて、核藻場を維持し、藻場を広げることができる。

◎植食性魚類であるアイゴは、周囲に他の魚類がいるかないかで海藻に対する捕食行動が変わる。

などの発表がありました。



中野・伊藤(2007)を参考に追加改変

発表資料より抜粋

## ②「小宇宙が出来上がる訳よ。貝殻の中に」

海洋建設株式会社 代表取締役会長 片山 敬一

漁師の家に生まれ、漁業に従事し、潜水士として歩んできた中で、貝殻を使って瀬戸内海的环境保全に取り組んできたその人生を報告しました。また持続可能な社会を考えるための「聞き書き甲子園」では、会長が「潜水士」として海の自然再生部門の名人に認定され、これまで取り組んできたことを「聞き書き」した高校生が優秀賞を受賞しました。



## ③「浜の活力再生プランにおける貝殻利用」

全国漁業協同組合連合会 浜再生推進部 部長 高浜 彰氏

○浜の活力再生プランにおける貝殻利用の事例が紹介されました。

- ・ 貝殻の敷設によるナマコ増殖場の整備。
- ・ 貝殻を利用した人工魚礁を設置することで、漁場環境の改善。

など

○広域プランでは漁港内の静穏な水域を利用して、港内を藻場や幼稚魚の保育場へ有効活用する取組が紹介されました。

### ④漁港内水域の有効利用と海域環境向上に向けた取組

水揚げや漁船隻数の減少した地域等において、各浜の漁港や漁場の利用転換を図り、漁港内の静穏な水域を活用して増養殖機能を付加したり畜養水面に有効利用する等の取組を支援



発表資料より抜粋